

# God With Us

## Part 6: Israel's Unfaithfulness and God's Ridiculous Love

Kings & Prophets thru 722 B. C.

1 Kings 11 – 2 Kings 17; 2 Chronicles 10-28  
Obadiah, Joel, Amos, Jonah, Hosea

### Message 1 – Divided hearts > Divided kingdoms

Solomon, Rehoboam, and Jeroboam  
1 Kings 11-14 and 2 Chronicles 10-12

神は我らと共に

パート6：イスラエルの不信仰と神の驚くばかりの愛

紀元前 722 年までの王と預言者たち

第一列王記 11 章 – 第二列王記 17 章、第二歴代誌 10 – 28 章  
オバデヤ書、ヨエル書、アモス書、ヨナ書、ホセア書

第一メッセージ – 分裂した心 > 王国の分裂

ソロモン、レハボアム、ヤラベアム

第一列王記 11 – 14 章と第二歴代誌 10 – 12 章

## 復習と概要：

旧約聖書の「王国分裂」時代を理解するためには、物語全体のどこに該当するかを知ることが有効である。旧約時代のイスラエル国家の歴史は、以下の 10 の主要な部分に分けることが出来る：

**1. 家長：**紀元前 2000-1800 年、アブラハム、イサク、ヤコブは、それぞれイスラエルの「家長」であった。ヤコブの 12 人の息子によって、イスラエルの「12 部族」が形成された。創世記の終わりに、ヤコブと息子たちはエジプトに移った。その後 400 年にわたり国家へと成長した。

**2. 出エジプト：**紀元前 1440 年、イスラエル国家は、モーセの指揮下、神の偉大なる御手によるエジプト「脱出」を果たし、それを機に国家は明確なアイデンティティを得た。神はシナイ山にて、イスラエルの民が神に選ばれた民であり、彼らを通してご自身を世にお現しになる民とされる契約を結ばれた。シナイ山にて与えられた律法は、イスラエルの身の振舞を異教徒の国々から隔離し、世に神のご性質を明らかにすることを意図した。

**3. 征服：**紀元前 1400 年、荒野で、初代イスラエルの民が死に、新しい世代がカナン征服のために、ヨシユアによって導かれた。神は、カナンの人々が偶像を捨て神に向くことを 400 年もの間待たれた。神の恵みと忍耐は「イスラエルの杖」を用いて、カナンの土地から先住民を追放し、神の義へと譲った。その結果、イスラエルは「約束の土地」を手に入れた。

**4. 裁き司：**紀元前 1400-1050 年、かつて、カナンの地にて、イスラエルの民は繰り返しヤハウエとの契約から遠ざかったために、何度も外国の勢力に抑圧された。その都度、一連の指導者たち（裁き司）によって救われた。

**5. 連合王国：**紀元前 1050-930 年、イスラエルの民は、決して人間の王を持つてはならないとされていた。神こそイスラエルの「王」であったからである。しかし、イスラエルの民は、諸国家と同じ様に人間の王を与えることを神に強要した。サウル王、ダビデ王、ソロモン王が、イスラエルの「連合王国」の初三代の王であった。

**6. 王国の分裂：**紀元前 930-722 年、ソロモン王の後、国家は北（「イスラエル」 – 10 部族）と南（「ユダ」 – 2 部族）に分裂した。

ライバルの王国は、互いに平穏と戦争を繰り返した。北王国には、信仰を持つ王は存在せず、最後まで背教した王国であった（アッシリアの侵攻-紀元前 722 年）。

**7. 南王国のみ：紀元前 722-586 年**、南王国には、主に献身する時期と背教の時期との間に、何人もの信心深い王と揺れ動く王が存在した。ユダ王国は、バビロニア人の侵略（紀元前 586 年）まで、さらに 140 年間続く、紀元前 722 年のアッシリアの侵略から生き延びた。

**8. 捕虜：紀元前 586-536 年**、南の王国のユダヤ人は、バビロンの捕虜になる。捕虜の期間は約 70 年であった。その間ペルシャが世界大国としてバビロンを追い抜いた。

**9. 捕虜収容後：紀元前 536-400 年**、残ったユダヤ人は、ペルシャの王キュルスによって解放され、故国に戻ってエルサレムで神殿を建て直すことが許された。エズラとネヘミヤは、捕虜収容後の重要な指導者であった。

**10. 「沈黙の時代」：紀元前 400 年ーキリスト**、ユダヤ人は、キリストの時代も含め、様々な世界の支配下（ペルシア、ギリシャ、エジプト、シリア、ローマ）に生きた。ユダヤ人にとっては非常に波乱の時代であった。マラキ（紀元前 400 年）以降、バプテスマのヨハネが救世主イエス様の先駆者として登場するまでの期間、預言者の声が聞こえなくなったので、その時代を「沈黙の時代」と呼んでいる。

これから列王記第一、第二、及び、歴代誌第二に記録されている、分裂した王国を学ぶところである。その期間に、多くの預言者（聖書の本を記した預言者もいる。）が出現し、国家を主との契約忠誠に戻そうと呼びかけた。「物語は、豊かさ、影響力、貧困、麻痺に至るイスラエル国家の話である。」（G. Campbell

Morgan）。「ヤハウエが王であることを拒否し、国家統治を計り、完全に失敗した国家をここに見る。」（Irving Jensen）。

なぜ、古いみことばを学ぶ必要があるのでしょうか？これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである（第一コリント 10：11）。それら古代の物語は、今日の生活のために神に触発された時代を超越する真理を含んでいる。

## 第一メッセージ-心の分裂 > 王国の分裂 ソロモン、レハボアム、ヤラベアム

### 第一列王記 11-14 章と第二歴代誌 10-12 章

#### はじめに

ソロモンは、父親のダビデに続きイスラエル連合王国の三代目の王となった。戦いの休息時に、広大で影響力のある王国と遺産を相続して繁栄した。征服のために戦う必要がなかったソロモンは、栄光に満ちた見事な神の神殿をエルサレムに築き、飾ることに献身した。ソロモンの知恵を聞き、神がソロモンの王国にお与えになった栄光を一目見るために、世界中の人々が訪れた。しかし、ソロモンの心が神であるヤハウエへの献身から離れ漂流したため、その繁栄は短かった。「分裂した王国」としてのイスラエルの物語の起源は、ソロモン自身の「分裂した心」にあった。

「分裂した心」とは何か？新約聖書の中でヤコブは、「二心の者ども」に「心を清くせよ」と警告している（ヤコブの手紙 4：8）。二重心という言葉の由来は、分割された利益と忠誠心

を持つ者を描写するギリシア語の“dipsichos”である。人が2つの選択肢の間で引き裂かれた状態を表す。旧約聖書、歴代誌第二16章9節に、神はあまねく全地を見渡し、その心をご自分と「全く一つ」になっている人々を探しておられるとある。したがって、分割された心とは、完全に神に捧げられていない心ということである。他の偶像である神々を招き入れる心。ある時は神を信頼し、また、ある時は信頼しない心。主なる唯一の神の他に、仕える偶像を設ける心（マタイの福音書6:24）。次の物語で見られる様に、分割された心には様々な異なる形や大きさがある。

#### ソロモン王：大勢の女性によって分割された心 列王記第一 11 章

神は、あらゆる方法でソロモンを祝福された。しかし、伝道者の書の記録によると、ソロモンは、ありとあらゆる世俗的快楽で楽しみのために、神の祝福を利用した。ソロモンは、美しい女性たちへの情欲に最も消費された。ソロモンの心を神から離し、女たちに向けることを許した。

ソロモン王は多くの外国の女を愛した。すなわちパロの娘、モアブびと、アンモンびと、エドムびと、シドンびと、ヘテびとの女を愛した。主はかつてこれらの国民について、イスラエルの人々に言われた、「あなたがたは彼らと交わってはならない。彼らもまたあなたがたと交わってはならない。彼らは必ずあなたがたの心を転じて彼らの神々に従わせるからである」。しかしソロモンは彼らを愛して離れなかった。（列王記第一 11：1，2）

ソロモンは700人の王妃なる妻たちと300人の妾で宮殿を満たした。女たちを喜ばせるために、それぞれが故郷から持

ち込んだ偶像の神々や女神等でエルサレムを満たした。その結果、神の裁きと「分裂王国」へと導びかれた。

このようにソロモンの心が転じて、イスラエルの神、主を離れたため、主は彼を怒られた。すなわち主がかつて二度彼に現れ、この事について彼に、他の神々に従ってはならないと命じられたのに、彼は主の命じられたことを守らなかったからである。それゆえ、主はソロモンに言われた、「これがあなたの本心であり、わたしが命じた契約と定めとを守らなかったのだから、わたしは必ずあなたから国を裂き離して、それをあなたの家来に与える。しかしあなたの父ダビデのために、あなたの世にはそれをしないが、あなたの子の手からそれを裂き離す。ただし、わたしは国をことごとくは裂き離さず、わたしのしもべダビデのために、またわたしが選んだエルサレムのために一つの部族をあなたの子に与えるであろう」。（列王記第一 11：9－13）

上記の聖句は、イスラエル王国が北（イスラエル王国）と南（ユダ王国）に分裂してしまった経緯を説明している。王国の分裂はソロモンの心の分裂が招いた神の裁きであった。

ソロモンの物語は悲しみに終わる。以前は平穏を楽しんでいたが、終わりに向けて神によって立てられた多くの敵に悩まされた：エドム人のハダデ（列王記第一 11：14－22）、アラム人のレズン（列王記 11：23－25）。最終的に、ソロモンの家来であり、管理職にあったヤラベアムも王に反逆した（列王記第一 11：26－40）。ヤラベアムは、ソロモンの死後、最終的に北王国の王となる。

ソロモンの降下を説明する過程で、「心を転じ」という表現が4度ある（列王記第一 11：2，3，4，9）。心が神から離れるとき、心の中の神の御国の建設のための働きの一部も引き裂

かれる。心の分裂は、間違いなく王国の分裂へと繋がる。あなたの心を純粋な神への献身から遠ざけようとする力が働いていませんか？神に与えられた特権によって何らかの権利を得たかの様に感じておられませんか？神から与えられた祝福を受けながら、それらによって心が分裂させたり、神の戒めから遠ざかったりしておられないでしょうか？既に、それらの力によって、心を神から遠ざけることを許してしまった方は、それらによって支払わなければならないコストについて、立ち止まって考えられたことがありますか？

#### レハベアム：時によって心を分裂する ：歴代誌第二 10-12 章

レハベアムは、父親のソロモンから王座を相続した。全イスラエルの議会がイスラエル全土の中心にあるシェケムで開かれたからである。人々は、ソロモンの指揮下で、重度な労働に課されていたため、レハベアムに労働の軽減を要求した。レハベアムは、愚かにも、長老たちによる（要求を認める）忠告を拒み、若い友人たちによる厳しい助言に従うことを選んだ。

しかし彼は長老たちが与えた勧めをすてて、自分と一緒に大きくなって自分に仕えている若者たちに相談して、彼らに言った、「あなたがたは、この民がわたしに向かって、『あなたの父上が、われわれに負わせたくびきを軽くしてください』と言うのに、われわれはなんと返答すればよいと思えますか」。彼と一緒に大きくなった若者たちは彼に言った、「あなたに向かって、『あなたの父は、われわれのくびきを重くしたが、あなたは、それをわれわれのために軽くしてください』と言ったこの民に、こう言いなさい、『わたしの小指は父の腰よりも太い、父はあなたがたに重いくびきを負わ

せたが、わたしはさらに、あなたがたのくびきを重くしよう。父はむちでああなたがたを懲らしたが、わたしはさそりであなたがたを懲らそう』」。 (歴代誌第二 10 : 8-11)

人々が厳しい応答を聞いたとき、レハベアムのリーダーシップに反乱を起こし、王国は分裂した。

イスラエルの人々は皆、王が自分たちの言うことを聞きいれないのを見たので、民は王に答えて言った、「われわれはダビデのうちに何の分があるのか。われわれはエッサイの子のうちに嗣業がない。イスラエルよ、めいめいの天幕に帰れ。ダビデよ、今あなたの家を見よ」。そしてイスラエルは皆彼らの天幕へ去って行った。しかしレハベアムはユダの町々に住んでいるイスラエルの人々を治めた。レハベアム王は徴募人の監督であったアドラムをつかわしたが、イスラエルの人々が石で彼を撃ち殺したので、レハベアム王は急いで車に乗り、エルサレムに逃げた。こうしてイスラエルはダビデの家にそむいて今日に至った。(歴代誌第二 10 : 16-19)

イエス様は、仕える指導者の模倣であった：人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであると、ちょうど同じである」。 (マタイの福音書 20 : 28) イエス様は、心から人々を心配された。レハベアムに助言を与えた長老たちは、その原理を理解していたが、若者たちは、「民に誰が権威ある王であるか」を脅威をもって指揮することによって表すべきであると考えた。知恵は、歳を重ねることによって育まれる。あなたは助言を誰に求めますか？あなたが指導する立場にあるなら、「仕える指導者」となるためにどうすればよいのでしょうか？

興味深いことに、レハベアムは、来る飢饉の三年間、最善の選択をし、新しい南の王国の安定をもたらした：

1. (預言者シェマヤを通して) 内戦を起こすことに対する神の助言を受け入れた(歴代誌第二11:1-4)。2. 防衛で南王国を強化した(歴代誌第二11:5-12)。3. レビ族、司祭や敬虔な人々と提携し、南の王国を霊的に強化した(歴代誌第二11:13-17)。4. 南部の主要都市の指導者として息子を送った(歴代誌第二11:18-23)。

最も重要であることは、北と南の敬虔な人々との提携であり、南王国を霊的かつ道徳的に強化したことであった。

またイスラエルのすべての部族のうちで、すべてその心を傾けて、イスラエルの神、主を求める者は先祖の神、主に犠牲をささげるために、レビびとに従ってエルサレムに来た。このように彼らはユダの国を堅くし、ソロモンの子レハベアムを三年の間強くした。彼らは三年の間ダビデとソロモンの道に歩んだからである。レハベアムはダビデの子エレモテの娘マハラテを妻にめとった。マハラテはエッサイの子エリアブの娘アビハイルが産んだ者である。

(歴代誌第二11:16-18)

なぜ、レハベアムと神聖な指導者間の提携が「三年間」続いたことが二度繰り返されているのでしょうか？その悲しい答えが次の箇所にある：

レハベアムはその国が堅く立ち、強くなるに及んで、主のおきてを捨てた。イスラエルも皆彼にならった。彼らがこのように主に向かって罪を犯したので、レハベアム王の五年にエジプトの王シシャクがエルサレムに攻め上ってきた。その戦車は一千二百、騎兵は六万、また彼に従ってエジプトから来た民、すなわちリビアびと、スキびと、エチオピヤびとは

無数であった。シシャクはユダの要害の町々を取り、エルサレムに迫って来た。(歴代誌第二12:1-4)

レハベアムの霊的情熱は三年間のみ続き、5年目には、背教し、神の裁きが下された！預言者を通して、神に返っていなければ、エジプトのシシャクは、ユダ王国を完全に破壊していたでしょう：

そこで預言者シマヤは、レハベアムおよびシシャクのゆえに、エルサレムに集まったユダのつかさたちのもとにきて言った、「主はこう仰せられる、『あなたがたはわたしを捨てたので、わたしもあなたがたを捨ててシシャクにわたした』と」。そこでイスラエルのつかさたち、および王はへりくだって、「主は正しい」と言った。(歴代誌第二12:5, 6)

レハベアムの「主への依存」は、特定期間のみであった。危機的状態にあったときは、神により頼み、危機から逃れたら、神から離れてしまう。心は一貫して主に捧げられていなかった。にもかかわらず、神は悔い改めの心に答えられた。

主は彼らのへりくだるのを見られたので、主の言葉がシマヤにのぞんで言った、「彼らがへりくだったから、わたしは彼らを滅ぼさないで、間もなく救を施す。わたしはシシャクの手によって、怒りをエルサレムに注ぐことをしない。しかし彼らはシシャクのしもべになる。これは彼らがわたしに仕えることと、国々の王たちに仕えることとの相違を知るためである」。(歴代誌第二12:7, 8)

レハベアムの王国は、その時点から17年間の治世の終わりまで、エジプトの支配の対象となった。既に、ソロモンの時代の栄光は急速に崩れ始めた。

ここに繰り返されるパターンが浮かび上がる：ソロモンの心は神と女たちに分裂し、その結果、王国は分裂し、レハベアムに与えられた。レハベアムの心は危機の時のみ神へと傾き安らかな時は神から離れた。その結果王国は、シシヤクに与えられた。心の分裂は、間違いなく王国の分裂へと繋がる。レハベアムの物語をじっくり熟考しましょう。あなたは、楽な時よりも試練のときに、より神に頼る傾向はないでしょうか？神に向かってひざまずくためには、危機的事態が要しますか？どんな季節にあるときでも一貫して主を信じる人となるためにはどうすればよいのでしょうか？

### ヤラベアム：恐れによって分裂した心 ：列王記第一 11 - 14

神はソロモンに対する判決として、ソロモンの家来であるヤラベアムに 10 部族を引き継がせ北の王国（イスラエル王国）に分裂された。もし、ヤラベアムが神の道を歩むなら、永続的な王朝が約束されていた（11：38）。神が北の 10 部族をヤラベアムにお与えになるご計画を知り、ソロモンは彼を殺そうとした（11：40）ので、ヤラベアムはソロモンが死ぬまで、エジプトに亡命した。

ソロモンの死後、ヤラベアムはイスラエルに戻った。シェケムの国民議会と共に、レハベアムに厳しい労働の負担を軽減するよう頼んだ。レハベアムが拒絶した時、人々はダビデの党の支配を拒絶し、ヤラベアム側に就いた。

イスラエルは皆ヤラベアムの帰ってきたのを聞き、人をつかわして彼を集会に招き、イスラエルの全家の上に王とした。ユダの部族のほかはダビデの家に従う者がなかった。（列王記第一 12：20）

悲しいかな、ヤラベアムは神による永続的な王朝の約束に信頼する代わりに、早速自分の心に従った：「ヤラベアムはその心のうちに言った。」（「自分で勝手に考えた」12：26、33）。毎年恒例の国家の祝いのためにエルサレムに行く際にヤラベアムは、南王国と再会することを恐れ、その解決策として、北王国のための独自の宗教を開発し、黄金の子牛と二か所に好都合な礼拝堂を北王国の両端に建てた。イスラエルの民がエジプトを去った後、アロンに黄金の子牛を礼拝するために造ることを強要したときのことを思い出しましょう（出エジプト記 32：3-5）。およそ 500 年後、ヤラベアムはエジプトで黄金の子牛を礼拝する偶像礼拝に触れ、イスラエルに戻ったばかりであった。神が 500 年前に、イスラエルの民を救われた偶像礼拝をヤラベアムは再建してしまったのです！

そこで王は相談して、二つの金の子牛を造り、民に言った、「あなたがたはもはやエルサレムに上るには、およばない。イスラエルよ、あなたがたをエジプトの国から導き上ったあなたがたの神を見よ」。（列王記第一 12：28）

イスラエルに黄金の子牛を礼拝する偶像礼拝へと後退に導いたヤラベアムの罪は、悪の基準を設定した。将来の王の罪は、「ネバトの子ヤラベアム」によって犯させた（参照：列王記第一 13:34、14:16、15:26、30、16:2、列王記第二 3:3、10:29、13:2、17:21）。

神は具体的に、もし、ヤラベアムが神の道を歩むなら、永続的な王朝を与えることを約束された（11：38）。ヤラベアムが神の約束が真実であることを信じなかったことは明確である。この様にして、ヤラベアムは自力で王国を守ろうと努めた。ヤラベアムの心は神への信頼と自己保護に繋がる恐れの間で分裂した。恐れによって心が分裂し、神に信頼することから心を遠ざけられたことはありませんか？神に信頼し続

ける代りに、恐れから自力で物事を解決しようとされたことはありませんか？

ヤラベアムの新しい宗教に対する判決を下すために、無名の預言者が南王国から北王国に送られた。ベテルで礼拝するために設置された祭壇が、預言者の言葉によって真っ二つに裂けた！しかし、神からのみことばを聞いて、枯れた手の癒しという個人的な奇蹟を体験したにもかかわらず、自分の犯した罪を悔い改めることをしなかった。

この事後も、ヤラベアムはその悪い道を離れて立ち返ることをせず、また一般の民を、高き所の祭司に任命した。すなわち、だれでも好む者は、それを立てて高き所の祭司とした。この事はヤラベアムの家の罪となって、ついにこれを地のおもてから断ち滅ぼすようになった。

(列王記第一13：33, 34)

**注意：**この無名の預言者がヤラベアムを叱責するために送られた物語には隠されたメッセージがある。最初、預言者は、北王国での活動中に神の戒めに忠実に従うために非常に注意深かった。しかし、その後、「神からのみことば」（以前の神の指示と異なるもの）接近してきた年上の預言者に欺かれた。南から訪れた預言者は、その嘘によってつまづいた結果、命を失った！その物語が含まれている理由は、北王国全体の運命が描かれているからである。彼らは惑わされ、ヤラベアムに従うことを選択し、他の神々を崇拝し、主に献身することから離れるよう導かれた。無名の預言者が偽りの声に従ったことによって命を失ったように、北王国もまた、神の言葉を捨て偽りの声に従ったために、最終的に命取りとなる。

頻繁に、「主のみことば」を用いて異なる方向に導かれ、神の御心から遠ざけられることがある。使徒ヨハネは、次の

様に記している。愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである（ヨハネ第一4：1）。「神からの御声」を聞いたと思われるとき、神がすでに明らかにして下さった事柄に対して新しいメッセージを測定しなければならない。神は混乱や矛盾の神ではない。ですから、聖霊のみ声と明らかにされた神のみことばによってすべてを測定することを助けることが出来る、敬虔な相談役を持つことが非常に重要である。あなたは霊が神から来たものであるかどうか確認しておられますか？

預言者アシラは、ヤラベアムが北王国の王になることを告げた最初の人物であったが、今度は、偶像崇拝に陥った結果ヤラベアムの王朝の終わりと北王国の確実な終わりを預言した（列王記第一14：15, 16）。アシラの予言の状況は、ヤラベアムの息子たちの病いであった。ヤラベアムは妻に、預言者アシラから息子の運命を追求するために身元を隠し、南に行く様命じた。アシラは変装に惑わされず、即座に、ヤラベアムの全王朝に判決を言い渡した。

それゆえ、見よ、わたしはヤラベアムの家に災を下し、ヤラベアムに属する男は、イスラエルについて、つながれた者も、自由な者もことごとく断ち、人があくたを残りなく焼きつくすように、ヤラベアムの家を全く断ち滅ぼすであろう。

(列王記第一14：10)

何と皮肉なことでしょう。ヤラベアムは、神の道を歩むなら、永遠の王朝を与えるという主の預言は信じなかったが、病いの息子の運命に関する主の預言を聞くために遙々南王国まで妻を送った。ヤラベアムは他に選択の余地がなくなり、追い込まれてしまったときだけ神を求めた。

### 討論のための質問：

このメッセージはあるテーマに焦点を当てている：分裂された心は必ず分裂された王国へと繋がる。

1. これらの「分裂した心」を持つ3人の指導者について考えたときに最も影響を与えた事柄は何ですか？
2. 「分裂した心は、間違いなく分裂した王国へと繋がる」その事実を個人的に体験されたことがありますか？
3. ソロモンの心は「神々」（女性たち）によって分裂してしまった。あなたの心を分裂させ奪うことを許した「神々」は何でしょうか？
4. レハベアムの心は季節（試練の時だけ神に向かい、繁栄の時は離れる）によって分裂してしまった。あなたの人生の季節によって信仰が揺れることはありませんか？説明して下さい。
5. ヤラベアムの心は恐れ（恐れは、神の約束に疑いを抱かせ、自力で物事を管理させた。）によって分裂してしまった。恐れはあなたの心をどの様に捕らえますか？神により頼むのではなく、自力で解決させようとしておられないでしょうか？
6. 聖書のこの部分から得られた他の観察や用途はありませんか？